

4-5	年齢を誤った場合の影響は。	栄養価計算、判定方法
4-6	回答信頼度チェック「主食合計:(めし杯数+穀類頻度)/日」の意味は。	回答チェック
4-7	妊婦の肥満度の判定方法は。	妊婦、肥満度
4-8	BDHQ3y、15yの肥満度の信号の判定基準と個人結果票の説明が異なる理由は。	3y、15y、肥満度
4-9	炭水化物の判定にアルコール摂取量も考慮されているか。	信号、炭水化物
4-10	「平均的な日本人の摂取量」の使い方は。	食事指導
4-11	疾患のある対象者に個人結果票を返却する場合の注意点は。	ガイドライン、めざしたい量
4-12	各栄養素の「めざしたい量」の算出方法は。	食事摂取基準、推奨量
4-13	個人結果票を返却しなくてもよいか。	結果返却、回答の信頼性
4-14	同じ選択肢を選んでも摂取量が異なる理由は。	推定申告誤差、摂取量
4-15	最新の個人結果票を取得する方法は。	栄養価計算、結果票、最新
4-16	個人結果票の値が推定申告誤差調整済み摂取量である理由は。	推定申告誤差、摂取量
4-17	BDHQ、BDHQL、DHQに回答した際の個人結果票の違いは。	成人版、結果返却
4-18	一般基本編のおもて面で結果が示されている栄養素が選ばれた根拠は。	食事摂取基準、信号
4-19	BDHQ3y対象者に個人結果票の食事バランスガイド編を出力していない理由は。	基準値、6歳以上
4-20	栄養素編のたんぱく質と葉酸の「じょうずなとりかた」の欄が空白の理由は。	栄養素編、裏面、開発中
4-21	栄養素編の「1回に食べるおよその量」と「含まれる栄養素量」の出典は。	栄養素編、食品量、栄養素量
4-22	「平均的な日本人の摂取量」の値が同じ対象者の複数回の調査で異なる理由は。	年齢、性別、誕生日、妊婦
5. 栄養価計算データ		
5-1	DHQ/BDHQデータに入力されている変数の意味は。	データ、変数リスト
5-2	DHQのD2シートのID番号はどこにあるか。	DHQ、ID
5-3	質問票の回答内容はエクセルデータにどのように記載されるか。	回答内容、bdhd1_1dat
5-4	推定エネルギー必要量の算出方法は。	エネルギー、食事摂取基準
5-5	推定エネルギー必要量が食事摂取基準の値と異なる理由は。	エネルギー、食事摂取基準
5-6	データに示されているエネルギーの示しているものは。	エネルギー
5-7	身体活動を考慮して栄養価計算を実施できるか。	身体活動度、エネルギー
5-8	BDHQ15yの「運動クラブ活動や運動習慣」の回答は計算に影響するか。	15y、運動習慣
5-9	結果データファイルにない栄養素や他の食事変数の計算をしてもらうことは可能か。	計算、食事変数、共同研究
5-10	結果データファイルのファイル構造は変えてもよいか。	データ構造、変更
5-11	肉と魚の調理方法の回答の使われ方は。	調理方法、砂糖・塩・油
5-12	果物に2回答する理由は。	ビタミンC、季節差
5-13	お酒の種類が未記入の場合の計算結果は。	酒、栄養価計算
5-14	妊婦・授乳婦の計算結果はそうでない場合と異なるか。	妊婦、授乳婦、判定
5-15	nf_nutr1、nf_nutr2、nf_nutr3 シートの結果は。	平均的な日本人、結果票
5-16	BDHQ3yの「野菜は」「お腹がすいたと言いますか」の回答は計算に影響するか。	3y、栄養価計算
5-17	「おもに答えた人」に2桁以上の数値が入っている理由は。	回答者、複数回答
5-18	signalシートで9が入力されている場合は。	信号、判定方法
5-19	BDHQ3y、15yの標準体重の算出方法は。	3y、15y、標準体重
5-20	DHQの「20歳ごろの体重」は計算に影響するか。	DHQ、20歳の体重
5-21	栄養補助食品の回答は計算に影響するか。	DHQ、栄養補助食品
5-22	からだの動かし方の回答は計算に影響するか。	DHQ、身体活動度
5-23	BDHQの種類が異なると計算された栄養素の種類も異なるか。	BDHQ、栄養素
5-24	肥満者のエネルギー摂取量が少ない理由は。	過小申告、肥満
5-25	申告誤差の値の記載場所は。	エネルギー、nutrシート
5-26	脂肪酸の表記の読み方は。	結果票、食品成分表脂肪編
5-27	栄養素の表記の順の意味は。	nutrシート、栄養素
5-28	DHQで牛乳の摂取量はどこに記載されているか。	DBase2シート、牛乳
5-29	「おもに答えた人」の回答は計算に影響するか。	回答者、栄養価計算
5-30	BDHQ15yのポーションサイズの決め方は。	ポーションサイズ、栄養価計算
5-31	密度法による摂取量、推定エネルギー必要量を摂取していた場合の摂取量の計算は。	摂取量の計算
5-32	BDHQ15yで動物性脂質と植物性脂質の合計が脂質の値と異なる理由は。	BDHQ15y、脂質
5-33	BDHQ15yでnutrシートとf_nutr1~3の各食品群由来栄養素の合計が異なる理由は。	食品群、分類、除外
5-34	算出される各栄養素の定義は。	食品成分表
5-35	シヨ糖の含まれている食品を摂取しているのに摂取量が0となる理由は。	シヨ糖、食品成分表
5-36	成分表が改定されるごとに計算結果も変わるのか。	食品成分表、更新
5-37	アルコール摂取量の算出方法は。	栄養価計算、方法
5-38	同じ回答でも摂取量が異なる理由は。	ポーションサイズ、栄養価計算
5-39	DHQデータに収載されている変数はすべて研究に使えるか。	妥当性、アミノ酸、イソフラボン
5-40	食事摂取基準の改定のたびに栄養価計算をやり直す必要があるか。	粗摂取量、再計算
5-41	BDHQ3yでみそ汁(MISO2)の値が非常に大きくなる理由は。	BDHQ3y、みそ汁
5-42	栄養素・食品摂取量の算出方法は。	栄養価計算、ポーションサイズ
5-43	各食品はどの食品群に分類されているか。	食品群、分類、摂取重量
5-44	国民健康栄養調査の参照データ更新のたびに栄養価計算をやり直す必要があるか。	栄養価計算、粗摂取量
6. 集計解析の方法		
6-1	DHQ/BDHQの値を使用して食事摂取基準の基準値と比較する場合は。	食事摂取基準、エネルギー
6-2	食品も栄養素と同様に統計的な処理ができるか。	食品摂取量、統計処理
6-3	異なる種類のBDHQを統合できるか。	BDHQ、栄養価計算
6-4	エネルギー過小申告者の除外基準の考え方は。	過小・過大申告、除外
6-5	野菜摂取量の合計値を算出する方法は。	食品群、分類
6-6	BDHQの結果と国民健康栄養調査の値を比較する場合は。	調査法、エネルギー調整
6-7	食品群別栄養素摂取量の値を算出するには。	データ、f_nutr1
6-8	食品群摂取量の値を算出する場合の食品分類方法は。	データ、食品群分類

6-9	食品群摂取量の値を自分で算出するには。	食品群分類、魚・肉・果物
6-10	申告誤差を補正するには。	申告誤差、エネルギー調整
6-11	食べる量が異なると考えられるような群間比較の場合にもエネルギー調整するべきか。	申告誤差、BMI
6-12	エネルギー調整をしていない摂取量をどうとらえるか。	申告誤差
6-13	エネルギー以外の変数の過小過大申告の考え方	申告誤差、エネルギー
7. 論文の読み方と作成		
7-1	DHQ/BDHQの説明の書き方は。	論文、方法、説明
7-2	DHQ/BDHQの利用の根拠は。	妥当性研究
7-3	BDHQ妥当性研究で使われているDe-attenuationの詳細は。	妥当性研究

公開日	No.	質問内容	回答
1. 事前に知っておいてほしいこと			
151128	1-1	BDHQではどのようなことが分かり、どのような結果が得られますか。	回答者の習慣的な食事が分かります。およそ60種類の食品と、100種類を超える栄養素の1日あたりの摂取量推定値が算出されます。それをもとに、回答者の方には、食事の改善点などを示した個人結果票をお返します。結果票は種類が多くて充実しており、食事指導等の教育ツールとして利用できます。また、調査実施者の方は回答者全員分のエクセルデータを受け取ることができます。
151128	1-2	BDHQは1日食事記録の代わりになりますか。	測っているものが別なので、正しくは「代わりにはなりません」。調査(アセスメント)の目的をよく検討して、正しく使い分けるようにしてください。
171109	1-3	DHQとBDHQ3yの使用は許可制だと伺っています。必要な手続きを教えてください。	<p>DHQとBDHQ3yに限って、使用にあたり、研究／調査計画書を提出いただいています。HPの以下の場所に記載してあるフォームをご使用ください。 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/mail/mail.html</p> <p>いただいた計画書を確認し、DHQおよびBDHQ3yの使用が適当か判断しています。</p> <p>なお、現在、BDHQ3yの妥当性研究を進めています。結果が公開される時期は未定ですが、得られた結果に基づいて栄養価計算プログラムを修正(update)することを予定しています。この修正により、栄養素摂取量だけでなく、食品摂取重量などの計算結果も変わり得ます。この時期は現時点では未定ですが、これによりBDHQ3yの質の更なる向上が期待されます。時期や内容などについては研究の進捗に応じてそのつどWeb上でお知らせしていく予定です。質問票構造の修正(改変)は現時点では予定しておりません。</p> <p>なお、BDHQ(成人用)とBDHQ15yは許可をとる必要はなく、ご自由にお使いいただけます。</p>
151128	1-4	エネルギー摂取量を知りたいときはどうすればよいですか。①推定エネルギー必要量を見ればよいでしょうか、それとも②質問票から計算されたエネルギー摂取量でしょうか。	<p>食事調査(BDHQおよび食事記録を含むすべての調査)からエネルギー摂取量を知ることは極めて困難です。詳細は以下をご確認ください 「日本人の食事摂取基準2015年版」のⅡ各論、1-1エネルギーの項</p> <p>そのため、①、②いずれも正確な摂取エネルギー量は推定されておらず、これらは参考値としての利用に留める必要があり、目的や状況によって使い分けることとなります。長期間にわたり体重が変化していないという仮定を設け、BDHQの回答内容に関わらず推定したい場合は①を使います。BDHQの回答から推定された自己申告値を使いたい場合は②を使います。</p>

公開日	No.	質問内容	回答
151128	1-5	スポーツ選手や激しい運動を日常的にしている人でもBDHQを使用できますか。	BDHQの栄養価計算は全員の身体活動レベルをⅡであると仮定して行われています。そのため、激しい運動を行い、摂取エネルギーが比較的多い人の場合には、推定エネルギー必要量の正確な評価ができていないと考えられます。また、BDHQの妥当性は一般の人を対象に行っており、スポーツ選手で評価できるかを検討した研究は残念ながら今のところはありません。
151128	1-6	DHQ/BDHQは最近1か月の食習慣を尋ねていますが、1か月の根拠は何ですか。	理由は以下の3つです。 1) 食べたものについての人の記憶は1か月間くらいが限度ではないかと考えたこと。それより長い期間の食習慣を尋ねても1か月くらいを中心に答えるのではないかと考えたこと。さらには、日本人では明確な季節変動を有する栄養素はビタミンCだけであり、その他のすべての栄養素摂取量は明確な季節変動を有しないことが明らかになっていること(つまり、1年間を尋ねる必要は乏しい)。ただし、食品レベルでは明確な季節変動がありますので、注意が必要です。 2) 最近1か月間を尋ねるDHQやBDHQが1年間全体の食習慣とかなり高い関連を有することがわかってきたこと。 3) 栄養指導の効果は、血圧で2~4か月程度で現れてくるという論文が多数あります。そのため、1か月の食習慣を調べ、それに基づいて数か月間指導し、その後の1か月の食習慣を調べて食習慣の改善度を評価するのが、栄養指導上、もっとも実践的かつ科学的だと考えられたこと。
161006	1-7	例えば注目している食品が野菜の場合、BDHQの一部のみを使用して野菜摂取量のみを調査することは可能ですか。	BDHQの妥当性は、4ページすべてに回答したときの栄養価計算結果を用いて検討されており、一部のみを使用した場合にどうなるかは確認されておりません。また、注目している食品・栄養素が一部であっても、その対象者の全体的な食事の中で、注目している食品・栄養素の占める割合がどの程度なのか、などが分からなければ適切に評価することができません。当然ながら、栄養素および食品のエネルギー調整済摂取量の計算もできません。そのため、BDHQの一部を切り取って実施する方法はお勧めできません。ただし、これは計算により算出された栄養素や食品の摂取量に限ります。BDHQの回答項目のひとつを使って集団を群分けする(例:食べる速さの回答に従って集団を「かなり速い」~「かなり遅い」の5群にわけ)などの場合に、質問項目の一部を使用することは差支えありません。
171106	1-8	給食と家庭の食事を別々に評価したいのですが、どうすればよいでしょうか。給食を食べている対象者の場合、家庭の摂取状況をBDHQでおたずねして、栄養価計算後に給食の状況を上乗せするという形で使用してもよいのでしょうか。	DHQ/BDHQシリーズはすべて、回答者の方が過去1か月に食べた食事をまとめて回答する構造になっており、食べた場所や提供元別に摂取量を算出することができません。家庭外での摂取量を上乗せしてもよいかを検討した研究もないため、そのような方法で使用してよいかは分かりません。ご了承ください。

公開日	No.	質問内容	回答
160210	1-9	65歳以上の高齢者を対象としている場合、BDHQとBDHQLのどちらを用いるべきでしょうか。	字の大きさから考えるとBDHQLが勧められます。その一方でBDHQLは10ページ、BDHQはA3二つ折りで4ページとなるので、ページが増えると記入率が低下することも考えられます。現場で書く場合は字が大きい方がよいですが、初めて10ページのを当日までに書いて行く場合は根気が必要でしょう。状況に応じて判断する必要があります。
160210	1-10	BDHQを用いて、透析患者を対象に研究を行うことはできますか。	BDHQの妥当性研究は健康な人を対象に実施されており、特別な疾患を持っている方で検討された研究は残念ながらありません。その点をご理解いただいたうえでご使用ください。
160210	1-11	BDHQは学校教育の現場でどのように使用されているでしょうか。	栄養士養成校での食事指導法などの演習に用いている例があるようです。また、小学校の食育の授業でも使用されたことがあります。
160210	1-12	妊婦さんへはBDHQをどのように用いることができますか。	妊婦さんへの食事指導をBDHQで行うための準備となる研究を現在実施中です。例えばこれまでに以下のような研究が行われています。 http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/26078249 http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/24118748 また、今後介入研究も計画していると聞いています(残念ながら詳細な情報は持ち合わせておりません)。これらの研究が進むと、BDHQを用いた妊婦さんへの食事指導を、根拠に基づいて行うことが可能になります。
160210	1-13	BDHQでトランス脂肪酸の摂取量は推定できるでしょうか。	BDHQは食品数(種類)をぎりぎりまで削っており、トランス脂肪酸など特殊な栄養素の摂取量を調べる能力には長けてはいないと推測されます。一方DHQではトランス脂肪酸摂取量の推定がある程度可能であると考えられます。実際以下のような論文も公開されています。 www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/19786384 しかし、この研究は血清脂質などとの相関を解析した分析疫学であり、絶対摂取量を調べた記述疫学ではありませんでした。絶対摂取量の推定には、トランス脂肪酸の摂取源となる食品の詳細な分類を行った食事記録のデータが必要になります。成人ではそのような研究も行われました。 http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/20037259 これ以外の年代でトランス脂肪酸の研究を実施したい場合、当研究室の食品成分表や食事記録データを用いて共同研究として行うことが可能です。研究室にご連絡ください。

公開日	No.	質問内容	回答
160531	1-14	大学生スポーツ選手への使用を検討しています。1回の主食(ごはん)が500～800g程度のため、18歳以上の対象者ですが、主食の茶碗の大きさを選択できる15yの使用を検討しています。BDHQとBDHQ15yではどの程度差が生じるでしょうか。	各年代でよく食べられる食品が異なることから、BDHQシリーズはそれぞれの年代別に開発されており、尋ねている食品項目が異なります。18歳以上の成人がBDHQ15yに回答して各種食品群や栄養素の摂取量算出することはできませんが、ごはん以外の食品に関しても、成人用BDHQとは異なる値が算出されます。その妥当性の研究は存在しておらず、また同じ対象者がBDHQとBDHQ15yに回答した結果を比較した研究もありません。そのために残念ながら、科学的根拠をもって使用することはできない状況です。このような比較研究を実施したり、ごはんの摂取量を別の質問票で尋ねることを検討するなどして、まずはスポーツ選手へのBDHQの利用が整備されるような研究を進めて頂ければと思います。
161006	1-15	BDHQを使用するために専用のソフトを購入する必要がありますか。	BDHQ等の質問票を使用して調査を行う場合の流れは、当研究室HPIに掲載されている「BDHQ利用マニュアル」に説明があります。 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/dhq/manual/manual.html 「食事アセスメントの流れ」の項にあるように、一部のステップは専用の設備が必要のため、当研究室などに依頼して行う必要があります。 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/dhq/manual/svy01.pdf 当研究室では、以下の2つの場合に依頼を受け付けています。 (1)共同研究・共同調査を行う場合 (2)本学と委託契約を結び、当研究室に業務委託を行う場合 具体的には個別にご相談ください。 また、別に業者も存在します。こちらについては当該業者さんに直接お問い合わせください。 栄養価計算後のデータはエクセルで得られるため、ご自身の用途に応じて、ご自身でお使いの統計解析ソフト等で解析頂けます。
161205	1-16	BDHQで現在算出されていない栄養素の摂取量を算出したいときなどに、食品を追加することはできますか。	基本的にはできません。新規食品の選択方法、新規栄養素の摂取量を計算する(栄養価計算を行う)ために専門的な知識と技術が必要だからです。ただし、当研究室との共同研究としてこれを行う場合があります。
161205	1-17	BDHQを海外の調査で使用することはできますか。	できません。BDHQは日本に住んでいる日本人の食習慣を評価するために開発された質問票です。BDHQが日本以外に住む人の食習慣を評価可能か検討した研究はありません。食習慣は地域ごとの食文化に強く影響を受けるものであり、質問票を用いて食事調査を実施する場合には、その地域の食習慣を反映させた質問票を用いる必要があるとされています。 https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/12186666 海外で質問票を使用した食事調査を検討する場合には、その国の食事を評価可能な質問票を用いる必要があるでしょう。

公開日	No.	質問内容	回答
170403	1-18	ビタミンDの摂取量のみを知りたいと思っています。単一の栄養素であれば自分で計算できますか。それとも、そのような場合でも栄養価計算を委託しなければならないのでしょうか。	BDHQの回答内容から各種摂取量を算出する計算方法の内容は、現在公開準備を進めているところです(Q&A 5-37)。しかし、それぞれの栄養素摂取量の計算は、単純に、食品のある決まった重量に摂取頻度と食品成分表の成分値を掛け算しているだけではありません。かなり複雑なものです。したがって、たとえ、ある栄養素1種類だけ(たとえばビタミンDだけ)の摂取量を知りたいとしても、この栄養価計算は、専用の計算プログラムで行う必要があります。さらに、研究のためには多くの場合、注目している栄養素以外の他の栄養素、エネルギー、各食品の摂取量データも必要となるため、注目している栄養素のみを計算しても、それだけで研究を実施するのは難しいと考えられます。例えば、研究では申告誤差を補正するためにエネルギー調整済摂取量を使用する必要があります(Q&A 6-10)、そのためにはエネルギー摂取量の値も必要となります。そのため、研究を進めるうえで一度の栄養価計算で取得できるすべての食事変数のデータを手に入れておくのが効率的です。摂取量データを得るための栄養価計算は、当研究室または別に存在する業者に委託する必要があります。当研究室では(1)共同研究の場合、(2)委託契約を結び業務委託を行う場合、の2とおりの場合に受け付けています(Q&A 1-15)。業者さんをお願いする場合の費用は業者さんにお尋ねください。
171205	1-19	BDHQのデザインを変更(文字サイズやフォントの変更、イラストの追加)して調査することは可能でしょうか。	質問票のデザインを変更することは基本的には許可しておりません。OCRによる回答の読み取りに影響が出ることに加えて、食習慣の回答内容に影響が出ないか、その都度検討する必要があるためです。しかしながら、研究上どうしても必要で、回答の読み取りに影響がなく、食習慣の回答に影響が出ないと考えられる変更(不妊治療中の対象者のために「妊娠中」の文字を削除するなど)は、個別に許可する場合があります。詳細は研究室にお問い合わせください。
180615	1-20	DHQを購入したところ、納品書にはDHQLと記載されていました。正式名称はどちらですか。	正式名称はDHQです。論文や報告書等にはDHQと記載してください。DHQには開発の段階でいくつかの種類(16ページ版のもの、22ページ版のもの等)がありますが、栄養価計算の方法や質問構造の概念から、これらすべての正式名称にDHQを用いております。DHQLという名称は学術的には用いておりません。
180615	1-21	BDHQは特許を取得していますか。論文の執筆時に特許料などを支払う必要があるのでしょうか。	BDHQは特許を取得しておりません。データの利用に関しては無料です。データが完成しましたら、自由にお使いいただけます。ただし、質問票の購入や読込みに関する費用はかかります。料金の詳細は当研究室では把握しておりませんので、業者におたずねください。
2. 研究デザイン			

公開日	No.	質問内容	回答
160802	2-1	BDHQ対象年齢の上限は何歳までですか。	<p>上限はありません。18歳以上で使用できます。高齢者の方用には大きな文字で印刷された10ページ版のBDHQLがあります。BDHQLはBDHQに比べて文字が大きくページ数が多いですが、質問項目はBDHQと同じため、BDHQの妥当性研究を参考にできます。ただし、85歳以上の高齢者では十分な妥当性が検討されておらず、一部の栄養素のみの検討に留まっています。 http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/23299385 現在、超高齢者での妥当性の検討に関しては準備中です。</p>
151128	2-2	BDHQはいつ実施するのがよいのでしょうか。	<p>調査の目的によります。日常的な食習慣を知ることが目的の場合は、特別な行事が含まれる期間(年末年始)や食欲が著しく低下する夏の最も暑い時期などは避けた方がよいかもしれません。</p>
151128	2-3	食事には季節差があることを考えると、異なる季節で実施した場合や調査期間が長期にわたる場合、調査結果を同一集団として解析しないほうがよいのでしょうか。	<p>DHQを使用した研究のひとつでは、食事の季節差は存在しており、異なる季節に回答されたDHQの結果には差があること、しかし、どの季節にDHQを使用しても概ねその対象者の日常的な食習慣を把握できることが示されています。 http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/24885190 一方で、別の食事記録を使用した研究では、食品に関しては季節差が生じるものは多く存在するものの、栄養素(ビタミンC以外)ではそれほど大きな季節差があるものはなさそうだとの結果が得られています。 http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/12701630 これらの結果から、栄養素の研究に関してはそこまで神経質になる必要はないのかもしれませんが、しかしながら、この結果が異なる時期に調査を行うことを積極的に進めるものでもありません。異なる季節の食事を比較する場合には、食事に季節差が存在するということを配慮し、しっかりとした研究デザインを組んでから取り組むべきだと考えられます。</p>
151128	2-4	BDHQは同じ人に何度も回数を重ねて実施しないほうがよいのでしょうか。また、BDHQに回答したことのある経験数に差がないように配慮するべきでしょうか。	<p>BDHQの妥当性研究では1回目に(初めて)BDHQに回答した際の結果と食事記録の結果を比較して、BDHQで推定した多くの食品・栄養素摂取量が研究に使用できることを示しています。 http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/21477414 http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/22343326 複数回BDHQを経験された方を対象にした妥当性の研究がこれまで実施されていませんので、経験数が回答に与える影響がどの程度かお答えすることはできません。ただし、調査慣れによって回答が変化する(上手に答えられるようになる)などの影響は確かに考えられます。そのため、研究デザインを組むときには、やはり対象者の回答経験数をそろえておいた方がよいだろうと考えられます。</p>

公開日	No.	質問内容	回答
160425	2-5	小学校低学年を対象に調査を行いたい場合、どの質問票を使用すればよいでしょうか。	小学生、中学生、高校生のいずれも中学高校生用のBDHQ15yをお使いください。これまで小学校高学年用としていたBDHQ10yは質問票の構造が他のBDHQシリーズと異なっており、回答するのが難しい質問票であることがわかってきたため、新規の使用を中止しました。現在はBDHQ15yを小中高生用として使用できるよう、さらなる改良を加えているところです。
151128	2-6	BDHQ15yで小学生、中学生を調査する場合、誰(本人・親)がどこで(学校・家)回答するとよいでしょうか。	小学生の場合は本人のみではなく、保護者の方と一緒に回答することで妥当性が向上します。 http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/19602831 そのため、保護者と一緒に回答できる環境(自宅など)でお答えいただくことをお勧めします。学校などで本人(児童)だけで回答させることはお勧めできません。一方、中学生の場合はこの研究によると、自分で回答しても比較的高い妥当性が得られています。
160425	2-7	BDHQ10yでは「給食以外について考えてください」という文言がありますが、お昼に学校へお弁当を持っていく場合には、お弁当は給食以外ととらえるのでしょうか、それとも給食と考えるのでしょうか。	お弁当は給食以外の食事を含めてお答えください。また、「ごはん」と「みそ汁」の項目は「1日の朝食と夕食に食べた」杯数を回答することになっていますが、ここに昼食も含めてお答え下さい。ただし、BDHQ10yは学校給食が実施されていることを前提として使用される質問票ですので、新規の取り扱いを中止しました。小学生にはBDHQ15yをご使用ください。
161101	2-8	BDHQで摂取量をランク付けする場合に必要な人数は。	BDHQの妥当性研究は男女92人ずつで実施し、それ以外の人数で検討されていないため、対象者数によりランク付けする能力が変化するか否かはわかりません。 研究(調査)で用いる場合には、BDHQ妥当性研究の人数を参考にしつつ、実施したい研究(調査)で対象者数が何人必要かを考慮して人数を決める必要があるでしょう。

公開日	No.	質問内容	回答
170201	2-9	3年前に実施した小児の調査対象者に追跡調査を実施する予定です。3年前は3-15歳の子どもを対象に年齢に合わせてBDHQ3y、10y、15yを用いました。3年経って縦断解析を実施したい場合、質問票は3年前と全く同じものを用いて調査を実施した方がよいでしょうか。それとも現在の年齢に合わせた質問票を用いた方がよいでしょうか。	<p>質問票および調査方法は、研究の目的に応じて選択することになります。この場合の目的としては以下のいずれかの可能性が考えられます。</p> <p>1) 年齢で層別化した集団ごとに解析 2) 同年齢間で集団間比較</p> <p>1)の場合は同じ質問票を使うほうがよいと思われます。2)の場合は比較群間で同じ質問票を使うほうがよいと思われます。</p> <p>しかし、小児や高齢者などの成長をする集団の場合、食事に限らず、加齢に伴って用いるべき調査法が(特に質問票の場合は大きく)異なってきます。このことも念頭において計画を組む必要があります。</p> <p>今回は、「3年経って縦断解析を実施したい場合」のため、目的1)に該当します。その場合、このコホートでは、少なくとも今回に限っては、個人内で前回と同じ質問票を用いるのがよいのではないかと思います。</p> <p>ただし、BDHQ10yは「学校給食がある」と場合にのみ使えます(学校給食がない場合には使えません)。一方、BDHQ15yは「学校給食があってもなくても」使えます。これらの違いも承知の上、ご検討ください。</p> <p>なお、BDHQ10yはその後の利用状況から判断して現在は原則的には供給していません。過去にBDHQ10yを使用していて継続して使用する場合の詳細は以前の取扱業者にお問い合わせください。</p>
170509	2-10	生活習慣やライフスタイルの変化に伴って食習慣が変化した対象者の方の変化後の食習慣を、その変化後1か月を待たずに調査できればと考えています。例えば、食習慣が変化してから1週間後に、前週の食事を思い出してもらって記入していただくことで、適切な結果は得られないでしょうか。BDHQに回答していただくにあたり、「最近1か月の食習慣」という点はやはり強調しなくてはならないでしょうか。	BDHQで「最近1か月」の食習慣を尋ねている理由はNo.1-6に示しているとおりで、「最近1か月」をたずねることで、食習慣をおおよそ把握できることが研究で明らかになっているためです。一方で、最近1週間の食習慣をBDHQで回答して、その1週間の食事の内容がどの程度反映できるかは検討されておられません。過去1週間の食事をたずねた場合、研究を実施するうえでの大きな限界となります。この点をご承知いただいたうえでお使いください。
3. 回答とチェック			
151128	3-1	IDはどのように書くのですか?	個人にひとつ、数字のみのIDを割り当てて記入してください。文字やハイフンは使えません。始まりが「0」でない数字が適当です(最終的にエクセルデータで処理されますので、始まりが「0」の場合は、「0」を読み飛ばした数字となります。)
151128	3-2	IDは右詰めですか、左詰めですか?	右詰めでも左詰めでもかまいません。
160210	3-3	明治生まれの人は生年月日をどのように書けばよいでしょうか。	「大正1年」として回答してください。なお、85歳以上の高齢者では十分な妥当性が検討されておらず、一部の栄養素のみの検討に留まっています。 http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/23299385

公開日	No.	質問内容	回答
160210	3-4	身長・体重の記入は必須でしょうか。	BMIを使って計算し、個人結果票に表示するために使います。この結果が不必要な場合には記入の必要はありません。しかし、BMIを評価せずに食習慣の把握や食事指導を行うことは勧められません。また、調査や研究では、身長、体重が必ず必要になると考えられます。
160210	3-5	身長・体重は、小数点以下の記入が必須でしょうか。	小数点以下の記載がない場合は「0」で計算されますので、必須ではありません。
160210	3-6	身長・体重は実測値でなくてもよいですか。	実測値が理想ですが、大きく異ならなければ、本人が記憶している値(推定値)でもかまいません。求める精度に依存すると思います。
160210	3-7	対象者が妊婦の場合、体重はいつの体重を回答すればよいでしょうか。	現在の体重を記入してください。
151128	3-8	BDHQの回答の際、どのくらいの量食べたときに、1回と数えればよいでしょうか。	BDHQはあくまで記入者が自分の「直感」で記入する方法です。記入をインストラクションするためのフードモデルや写真等はありません。もし、もっと詳細に記入を希望される場合には他の方法を検討されることをお勧めします。
151128	3-9	「コーヒー」と「紅茶」を飲まなかったと回答している場合には、「コーヒー・紅茶に砂糖は入れますか」という質問は欠損でもよいでしょうか。	「コーヒー」と「紅茶」を飲んでいない場合には、空欄で構いません。
160210	3-10	コーヒー、紅茶にカロリーゼロやカロリーオフの甘味料を使いますが、「コーヒー・紅茶に砂糖は入れますか」にどう入力すればよいでしょうか。	エネルギー量の非常に少ない甘味料は、砂糖には含めないでください。「はい」と回答すると「砂糖」で栄養価計算がされるからです。
160210	3-11	砂糖をコーヒーには「いつも」、紅茶には「入れない」という場合どう回答したらよいでしょうか。	コーヒー・紅茶の飲んだ回数をあわせたときに、砂糖を入れる頻度はどのくらいを考えて、回答するか、「いつも」と「入れない」のあいだをとって、「ときどき」と回答して下さい。
161205	3-12	「食事のときに使うしょうゆ・ソース」とは、調理の際に加える分を含めますか。「全く使わなかった」と回答している場合、その次の量の項目はどのように回答すればよいでしょうか。また、「多め」「少なめ」とはどの程度の量を指しているでしょうか。	調理の際に加える分は含めません。食卓で使う分のみで回答してください。その場合、頻度でまったく使わないと回答した場合は量は空欄で構いません。量に関しては、「かなり多め」の場合、「ふつう」の1.2倍、「かなり少なめ」の場合は0.8倍で計算されます。ただし、この係数に十分な科学的根拠はありません。
151128	3-13	未記入があったときはどのように計算されているのでしょうか。	それぞれの質問項目ごとに、未記入だった場合にはどの選択肢を選択したとするかの規則が定められています。そのため未記入でもデータは作成されますが、それは仮の値を入れている状態ですので、可能な限り回答の欠損はなくしてください。 BDHQの欠損値の処理方法の規則に関してはHP上の以下の場所に掲載されている「BDHQの栄養価計算における欠損値処理方法」をご参照ください。 http://www.ebnjapan.org/developer/ http://www.ebnjapan.org/developer/pdf/1005096.pdf

公開日	No.	質問内容	回答
151128	3-14	DHQでは、摂取頻度が多い食品の場合のみ、量を問う構造になっています。回答者が月2～3回や月1回の少ない摂取頻度の場合に量を回答してしまった場合はどうすればよいでしょうか。	回答されていても問題ありません。
151128	3-15	DHQの17～18ページ目で最近1か月間の主食回数を尋ねていますが、「1週間に”朝食”を食べた回数」が7回にも関わらず、ごはん、パンなど、めん類の摂取回数の合計が7回に満たない人がいます。ここは再回答してもらったほうがいいでしょうか。	「1週間に”朝食”を食べた回数」は栄養価計算には使用しませんので、この回答と主食の回数の合計が合わなくても計算には問題はありません。しかし、これが合っていないということは、回答者が回答を誤っている可能性もあります。丁寧な調査を目指している場合には、回答者本人に確認することをお勧めします。
151128	3-16	DHQ21ページ目の栄養補助食品の質問ですが、どれかひとつだけしか使用していない場合に、他の使用していないもの全てについて「週1回未満」にチェックしてしまうことがあります。このままでよいでしょうか。	回答者本人に確認できれば、製品名の記入忘れではないか確認することをお勧めします。栄養価計算には反映されませんので、そのままにしておいても計算はできます。
160210	3-17	一般的に、回答された頻度や量がこのくらいなら再調査を考える方がよいという基準はありますか。	調査の実施可能性に応じて、再調査を実施する基準を変える必要があります。HPの以下の場所に回答チェックの基準を示していますので参考にしてください。 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/dhq/manual/svy05.pdf
160627	3-18	減塩醤油や腎疾患用の特殊食品(たんぱく質やビタミンKなどを制限した食品)や、栄養強化食品(ビタミンB1入り米)を使用中の場合、どのようにBDHQを記入すればよいでしょうか。	BDHQを食事指導のために使用する場合は、対象者の方に、特殊食品・栄養強化食品を考慮せず、実際に食べている通りにBDHQを記入してもらいます。そして、特殊食品の利用によって結果が変わると考えられる栄養素についてだけ、調査者が別途、各自の方法で計算を行い、BDHQから得られた結果に足したり、そこから引いたりしてください。たとえば、ビタミンB1強化米を食べていた場合には、BDHQで得られた米摂取量(重量)と、ビタミンB1強化米とふつうの米におけるビタミンB1含有量のちがいの情報を組み合わせることによって計算できると考えられます。
170606	3-19	「ごはん」と「みそ汁」の質問で、1日あたりの合計量を回答するべきところを、1週間の合計、または、1回の杯数と勘違いして回答される方が多くいらっしゃいます。どうしたらよいでしょうか。	「ごはん」と「みそ汁」は1日あたりの杯数をたずねています。ところが、1週間に〇杯と回答されることが多くあります。また、1回に〇杯食べると回答されることも多くあります。特にごはんは1日のエネルギー量を定める大きな要因になる質問ですので、この回答が極端に多すぎたり(5杯以上)、少なすぎたり(1杯未満/食べなかった)した場合は再調査で対象者に確認することをお勧めします。妥当な回答であったとしても、念のため確認することをお勧めします。 この件に関して、BDHQ15yを用いた調査では、質問票の「白米」の項目に手書きで(一日の合計)と追加記入することによって、勘違いする対象者が減少するとの報告を受けています。今後質問票の改定の際に改善したいと考えていますが、その場合白米と同様に、「麦ごはん・胚芽米・・・」の質問にも(一日の合計)を入れなければなりません。ここは空白が小さく、フォントを小さくしなければ入らないことから、現在検討中です。

公開日	No.	質問内容	回答
160210	3-20	体育会系の男子大学生を対象に調査を行います。ごはんの量はどんぶりで食べた場合でもお茶碗でも「1杯」として回答してもらってよいでしょうか。	BDHQでは、ごはんの標準1回摂取量を男性150g、女性130gとしています。対象者の方の摂取量がわかる場合はこの量を参考に杯数を調整して回答していただくことをお勧めします。1回食べたとき回答したときの量はHPの以下の場所(p.4)で説明しています。 http://www.ebniapan.org/developer/pdf/1005092.pdf
160210	3-21	お酒の頻度に回答がなかった場合で、それぞれのお酒の量の回答がある場合には、飲んだことになりませんか。	飲まなかったとして計算されます。再調査して頻度の欄を確認することをお勧めします。
160210	3-22	DHQのお酒の回答で「飲んだ」と回答した場合、酒の種類すべてに対して回数と量を回答する必要がありますか。	飲むものだけに回答してください。
160627	3-23	白米以外のご飯を定期的に食べていた場合に、麦ごはんや胚芽米を混ぜて食べていた場合や雑穀米はどのように回答したらよいでしょうか。	成人用BDHQでは、ごはんの種類に関わらず、白米以外でも「ごはん」として、「平均的な1日に食べたごはん」の杯数を答え、白米以外を食べることがある場合に、その下の⇒の先にある「玄米・胚芽米を食べたり…ありますか？」の質問に、その頻度を教えてください。七分づき、五分づきなど、白米以外はすべて「玄米・胚芽米など」として回答してください。 DHQでは、数種類の穀類を混ぜているときは、ごはんの種類の問題には最も多く食べている種類のもので回答してください。雑穀米の場合は、「麦ごはん」と回答してください。

公開日	No.	質問内容	回答
170821	3-24	質問項目に該当しない食品を食べていた場合はどのように回答したらよいでしょうか。	<p>どの食品をどの食品項目として回答するかは、本来は目的によってその都度変更する必要があります。栄養素や食品の摂取量をなるべく正確に求めたいという目的であれば、類似の質問項目に含めてください。類似のものが無いと思われれば、回答しなくてよいです。この場合の具体例をいくつか示します。</p> <p>(例1) 毎日水菜を食べるが該当する項目がなかったので回答しなかった→水菜は緑黄色野菜ですので「緑の濃い葉野菜」に入れるとよいと思われませんが、回答者が該当なしと判断したのでそのままにします。</p> <p>(例2) 毎日青汁を飲むので100%果物・野菜ジュースに「毎日1杯」と回答した→果物・野菜ジュースは、にんじん、トマト、りんご、などのジュースを想定した質問項目ですが、回答者が青汁が該当すると判断したのでそのままにします。</p> <p>(例3) 毎日青汁を飲むので「栄養補助食品を使いましたか」の質問に「毎日1回」と回答した→回答者が青汁を栄養補助食品として捉えているのであればそのままにします。</p> <p>(例4) 米粉パン→パンであればおかずパン・菓子パンも含めてすべての種類を「パン」に入れてよいと思われれます。</p> <p>また、摂取量の正確性よりも対象者の習慣や行動を知ることが目的という場合もあるでしょう。この場合の具体例と考え方はNo.3-29を参考にしてください。</p> <p>一方で、DHQ/BDHQは自記式質問票で、対象者本人がどのように回答したのかが大切です。妥当性の検討の際にも栄養士や研究者が回答を誘導しない状態でなされていますので、特に研究で使用する場合にはそれと同様の状況で回答することも必要となってきます。</p>
170821	3-25	ツナ缶(まぐろの油漬)に関して、1.カツオの油漬、2.カツオのスープ漬、3.サバの水煮、をツナ缶と回答してよいでしょうか。	<p>ツナ缶と回答すると、食品成分表番号の10264-まぐろ、油漬、フレーク、ホワイトを用いて計算されます。成分表でこの食品の栄養素を確認し、これと栄養組成の近いものはツナ缶と回答しても問題ないと考えられます。つまり、</p> <p>1.カツオの油漬→ツナ缶でよいでしょう。</p> <p>2.カツオのスープ漬→油や食塩の量が少ないのであればツナ缶よりも通常のかつおと考えて「脂が少なめの魚」として回答するほうがよいでしょう。</p> <p>3.サバの水煮→油を加えていないので通常のかつおと考えて「脂が乗った魚」として回答するとよいでしょう。</p> <p>しかし、調査員が回答を誘導するのは好ましくありません。回答者が2や3をツナ缶と認識しているのであれば、そのままにします。ただし、No.3-24にあるように、回答の仕方は目的によって変える必要がありますし、BDHQは自記式質問票のため、回答者が思ったとおりに答えることも大切です。</p>

公開日	No.	質問内容	回答
170821	3-26	塩味の薄い即席漬けをよく食べます。これを漬物として回答するのがよいでしょうか、それとも生野菜として回答するのがよいでしょうか。	漬物と回答した場合には、食品成分表番号の6066-きゅうり塩漬、6068-きゅうりぬかみそ漬、6139-たくあん干しだいこん漬、6195-なす塩漬、6196-なすぬかみそ漬、6235-はくさい塩漬、を用いて計算されます。成分表でこれらの食品の食塩の値を確認し、普段食べている即席漬けの食塩がこれらの値より非常に少なければ生野菜と回答するとよいでしょう。しかし、調査員が回答を誘導するのは好ましくありません。回答者が即席漬けを漬物と認識しているのであれば、そのままにします。ただし、No.3-24にあるように、回答の仕方によって変える必要がありますし、BDHQは自記式質問票のため、回答者が思ったとおりに答えることも大切です。
170509	3-27	回答内容のチェックの際に参考にしたいので、栄養価計算に必須の項目、計算に使われていない項目を教えてください。	<p>計算に必須の項目は、1ページ目の属性に関するところで、具体的には、性別、回答日、生年月日です。回答日、生年月日からは年齢を算出します。</p> <p>一方、計算に使わない項目は、 BDHQ:朝食の頻度、食べる速さ、季節によって食べ方が違う果物、最後にお答えくださいの4項目 BDHQ15y:質問に答えるひと、運動クラブ活動、朝食の頻度、サプリメント、季節によって食べ方が違う果物、p.4の最後の6項目 BDHQ3y:質問に答えるひと、遊び、主食のある食事の頻度、野菜は、お腹がすいたというか、季節によって食べ方が違う果物、p.4の最後の7項目です。</p> <p>調査の目的によっては計算に使わない項目を集計する必要があると思われます。その場合は可能な限り欠損をなくす必要があります。</p>
170403	3-28	対象者の方がボールペンで記入してしまい、その回答を修正したいと思っています。白い修正液あるいは修正テープで修正してもよいでしょうか。	手入力の場合は構いませんが、OCR入力の場合は機械が誤りなく読み取れるような記入であることと、機械にトラブルが生じないような注意が必要です。修正液や修正テープはOCRに質問票を取り込む際に引っかかるとの原因になる可能性が考えられ、避けた方がよいと思われます。既にボールペンで記入がある場合には二重線で消して新たな回答を追記するのは致し方ありませんが、回答者には最初から消しゴムで消せる鉛筆での記入をお勧めするようにしてください。

公開日	No.	質問内容	回答
170821	3-29	ノンアルコールビールはビールとして回答してよいでしょうか。	どの食品をどの食品項目として回答するかは、本来は目的によってその都度変更する必要があります。例えばノンアルコールビールの場合は、アルコール摂取量を正確に算出したいのであれば、お酒には含めないほうがよいでしょう。しかし、飲酒の行動や嗜好を知りたい場合、ビールの代替としてノンアルコールビールを飲んでいるのであれば、ノンアルコールビールをビールとして回答したほうがよいかもしれません。 一方で、DHQ/BDHQは自記式質問票であり、対象者本人がどのように回答したのかが大切です。妥当性の検討の際にも栄養士や研究者が回答を誘導しない状態でなされています。特に研究で各種摂取量を使用するのであれば、妥当性研究と同様の状況で回答したほうがよい場合もあるでしょう。これらの色々な要素や状況を考慮して決める必要があるでしょう。
4. 個人結果票			
151128	4-1	個人結果票詳細編の「粗データ・食品・栄養素摂取量」の表面の食品群分類では、酒類と嗜好飲料類(酒以外)に分かれています。裏面の「食品群別主要栄養素摂取量」の食品群では、嗜好飲料類に、お酒は含まれますか。	裏面の嗜好飲料類はお酒を含んでいます。
151128	4-2	個人結果票一般基本編の信号の色はどのように判定されますか。	HPの以下の場所で説明しています。ご覧ください。 http://www.ebnjapan.org/developer/pdf/1005095.pdf
151128	4-3	個人結果票の栄養素摂取量の数値がデータのnutrシートの栄養素摂取量と違っていません。なぜですか。	nutrシートは、回答結果をそのまま計算した結果(粗値)が示されています。個人結果票には、推定エネルギー必要量を摂取していると仮定した場合調整値(推定申告誤差調整値)が示されています。
151128	4-4	個人結果票の詳細編や一般基本編の「推定申告誤差」はどのように算出していますか。	推定申告誤差は、推定エネルギー必要量(EER)に対する、(BDHQで回答した)エネルギー摂取量(EN)の割合から算出しています。 推定申告誤差(%) = (EN - EER) / EER × 100 エネルギー摂取量 > 推定エネルギー必要量の場合は過大、逆の場合は過小と評価されます。
151128	4-5	対象者の方が日付の記載を誤ってしまい、本来とは異なる年齢のデータとなっていました。個人結果票に影響はあるでしょうか。	年齢が変わると、推定エネルギー必要量の値や食事摂取基準の指標が変わります。個人結果票は、推定エネルギー必要量を摂取したと仮定した場合の摂取量で示されている箇所があり、信号の色の結果は、食事摂取基準の基準値を基に判定されています。そのため、本来の年齢の結果と異なる可能性があります。
151128	4-6	個人結果票の詳細編で、回答信頼度チェックとして「主食合計:(めし杯数+穀類頻度)/日」が示されていますが、これはどのように使えばよいのでしょうか。	推定申告誤差の原因としてよくあるのが、主食の回答誤りです。それをチェックするために主食合計が個人結果票に載っています。

公開日	No.	質問内容	回答
151128	4-7	妊婦用の個人結果票で、太り過ぎやせ過ぎの評価はBMIで判断していますか。	妊婦の方の肥満度の判定も、そうでない方と同様に、回答時の身長と体重から計算したBMIで行っています。しかしながら、妊婦の方の場合は単純にBMIの判定を用いることが難しいので、信号が黄色や赤色がついても、正常な体重増加であれば問題ないということを、個人結果票返却時にご説明いただければと思います。
151128	4-8	BDHQ3y、15yの肥満度の判定は、青が「標準体重の-15%以上、+15%未満」となっておりますが、個人結果票には「標準体重に比した比率(%)で±20%以内が目安」と記載されております。この数値が異なるのはなぜでしょうか。	肥満度判定曲線には、「伊藤善也:肥満度判定曲線、成長曲線は語る 藤枝憲二編、p39-43、診断と治療社、東京、2005」を使っており、関数の詳細はHP上の以下の場所に掲載されています。 http://www.ebnjapan.org/developer/pdf/1005095.pdf ところが、「何%以上ずれたら肥満とする」といった判定方法がこの文献には書かれていません。そのため、どちらを選ぶかの根拠を見つけることができず、現在検討課題としています。
151206	4-9	食事摂取基準では、炭水化物の目安量は、炭水化物とアルコールの合計のエネルギー%として示されていますが、BDHQの個人結果票では炭水化物とアルコールは別々に信号が示されています。炭水化物の判定のときにアルコールは考慮されていないのでしょうか。	現時点では、炭水化物の判定で使っているのは、炭水化物摂取量のエネルギー%のみで、アルコールは考慮されておりません。この点を修正して結果が出せるように、現在作業中です。少々お待ちください。
160210	4-10	それぞれの結果票に示されている「平均的な日本人」の摂取量はどのように使えばよいのでしょうか。	「平均的な日本人」の摂取量は、国民健康栄養調査の結果から得られた、対象者と同じ年齢階級・性別の摂取量を元に、年齢ごとに数値をならし(smoothingを行い)、さらにその年齢の推定エネルギー必要量のエネルギーを摂取したと仮定して補正した(推定申告誤差調整済みの)結果です。もし、その栄養素の摂取量を減らしたい場合、平均的な日本人と比べて摂取量が非常に多い食品があれば、それを減らすのが効果的かもしれません。このように食事指導の場面で使いやすいように示されています。 smoothingの詳しい計算方法はNo.5-5で示している推定エネルギー必要量を算出するときの計算方法と同じですので参考にしてください。
160210	4-11	疾患がある対象者の場合、目標とする各栄養素摂取量の値が食事摂取基準とは異なります。このような場合の注意点はありますか。	結果票に示されているめざしたい量は食事摂取基準に基づいて示されており、各疾患のガイドラインで示されている値とは異なります。対象者の方へ結果を返却する際に、これらのことをよく説明するようにしてください。なお、BDHQの妥当性研究は健康な人を対象に実施されており、疾患のある人に使用できるかどうかはまだ検討できていないことをご了承ください。
160901	4-12	結果票に記載されている「めざしたい量(推奨量)」が、食事摂取基準の推奨量とは異なっています。どのように算出されていますか。	結果票のめざしたい量は、対象者と同じ年齢階級・性別で、妊娠または授乳中の場合にはこれらも考慮した推奨量に基づいています。ただし、年齢階級の境界上で大きな不連続が生じないように、数値をならした(smoothingを行った)値が記載されています。詳しい計算方法はNo.5-5で示している、推定エネルギー必要量を算出するときの計算方法と同じですので参考にしてください。

公開日	No.	質問内容	回答
161006	4-13	予算の都合上、対象者の方へ個人結果票の返却ができそうにありません。それでも調査を実施してよいでしょうか。	対象者の方へ個人結果票を返却しなくても調査を実施することはできます。しかしながら、マニュアルの以下の項の「個人結果票を返却するメリット」にあるように、結果返却は対象者の方のみではなく、調査者にとってもメリットとなります。 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/dhq/manual/res02.pdf 対象者の方へ調査に対するご負担をおかけすることを思えば、せめてものお礼として、結果返却までを組み込んだ調査計画を立てて頂ければと考えます。
170201	4-14	例えば同じ性別で同じ年齢の2人の対象者が、普通牛乳を週1回、その他の乳製品を全く摂取していないという同じ回答をしていた場合でも、個人結果票やデータに記載される乳製品のSV数に違いが生じています。なぜでしょうか。	詳細編以外のすべての結果票や、signalシートのSVの計算は、いずれも「推定申告誤差調整済み摂取量(推定必要エネルギー摂取量を摂取した場合の摂取量)」(詳細編に記載してある3つの摂取量のうちの3番目)を使用しています。自己申告による摂取量の推定では必ず誤差が伴いますので、なるべく実態を表すことができるように、その誤差を調整した値で示すようにしています。No.4-3の回答も参照してください。また計算方法はNo.5-31およびマニュアルの以下の項「結果票の使い方:詳細編」の項の⑦でも説明していますので、ご参照ください。 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/dhq/manual/res03.pdf
170821	4-15	貴研究室のWebサイトで日本人の食事摂取基準2015年版に対応した個人結果票が作成されているのを拝見しました。これと同じものを使用したいと思い、業者に依頼して個人結果票を出力していただきましたが、2010年版に対応したものしか受け取ることができませんでした。どうすれば2015年版の個人結果票を使用することができますか。	当研究室では現在、これまでよりも自由にBDHQを利用いただけるような仕組みを構築中です。その仕組みの運用開始と同時にすべてのユーザーの方が最新の結果票を出力できるように準備を進めているところです。このBDHQの仕組みに関するすべての管理運営をスタッフおよび学生がボランティアで対応しているために、大変な時間がかかっており、ご不便をおかけしております。どうぞ今しばらくお待ちいただきますようお願い申し上げます。
170821	4-16	個人結果票の値が推定平均必要量を摂取していたと仮定した場合の摂取量で示されているのはなぜですか。	それは、自己申告による食事調査で得られた摂取量には申告誤差が含まれており、この誤差の影響をできるだけ小さくするためです。申告誤差に関しては、マニュアル「過小・過大申告」をご参照ください。 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/dhq/manual/knw04.pdf この中で参考となる図書も紹介しておりますので、参考になさってください。
171106	4-17	BDHQ、BDHQL、DHQに回答した際、出力される結果票に違いはありますか。	BDHQ、BDHQL、DHQのいずれの質問票に回答いただいた場合でも、成人用BDHQの個人結果票を出力することができます。 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/dhq/manual/res02.pdf ただし、DHQでは一部の個人結果票を出力できませんのでご注意ください。

公開日	No.	質問内容	回答
171106	4-18	一般基本編の表面に結果が示されている栄養素は、どのような根拠で選ばれたものですか。	これらの栄養素は、生活習慣病などの予防の観点から日本人にとって問題となりやすい栄養素、または妊婦・授乳婦にとって特に気をつけてほしい栄養素です。
171205	4-19	BDHQ3yの対象者に個人結果票の食事バランスガイド編を出力できないのはなぜでしょうか。	BDHQ3yの対象年齢である3～5歳では、食事バランスガイドの基準値の設定がないためです。「あなたの性と年齢の適量」のSV数を示すことができないことから、出力をしておりません。
180209	4-20	個人結果票栄養素編の葉酸編とたんぱく質編では、裏面の「じょうずなとりかた」の欄が空白でアドバイスが記載してありません。なぜでしょうか。	これらの個人結果票の「じょうずなとりかた」は現在開発中のためです。今しばらくお待ちください。
180209	4-21	各個人結果票に記載されている、各食品の「1回に食べるおよその量」とそこに含まれる「栄養素の量」の出典を教えてください。	「1回に食べるおよその量」は、BDHQの栄養価計算で用いている1回あたりに食べる量(ポーションサイズ)、各種の食品データブック、レシピなどを参照しています。そこに含まれる「栄養素の量」は、BDHQの栄養価計算で用いている食品成分表の値を参照しています。BDHQ栄養価計算の詳細に関しては、現在公開する準備を進めています。今しばらくお待ちください。
180309	4-22	同じ対象者の方に3か月の期間をあけて2回、BDHQの調査を行ったところ、個人結果票に示されている「平均的な日本人の摂取量」の値が2回の調査で異なっていました。なぜでしょうか。	「平均的な日本人」の摂取量は、過去4年間の国民健康栄養調査の結果から得られた、対象者と同じ年齢階級・性別の摂取量の平均値を、年齢ごとに数値をならし(smoothingを行い)、さらにその年齢の推定エネルギー必要量のエネルギーを摂取したと仮定して補正した結果です。もし、3か月の調査期間中に対象者の方が誕生日を迎えた場合には、年齢が変化するため参照する値変わります。そのほかの可能性として、年齢が変わっていないとしても、妊娠中で妊娠週数が変わり、妊娠初期から後期になった場合などのように、推定エネルギー必要量が変化した場合には、値が変化します。
5. 栄養価計算データ			
151128	5-1	DHQ/BDHQの栄養価計算データのそれぞれの変数が何を示しているか教えてください。	BDHQの各変数の説明は以下の場所をご確認ください。 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/dhq/manual/cal02.pdf DHQの変数名は以下の場所をご確認ください。 http://www.ebnjapan.org/developer/pdf/1005092.pdf
151128	5-2	DHQのD2シートにはID番号がありませんでした。どこを見たらよいですか。	IDはD2シートのFR列“番号2”に入っています。

公開日	No.	質問内容	回答
151128	5-3	質問票に回答した内容はエクセルデータにどのように記載されますか。	BDHQの場合はbdhq1_1datシートに以下のページに示している規則に従って入力されます。 http://www.ebnjapan.org/developer/pdf/1005092.pdf BDHQ3yや15yの場合は構造が少し異なりますが、各項目の選択肢の上から「毎日2回以上」=1、「毎日1回」=2…などと入力されます。
151128	5-4	BDHQのnutrシートに記載されている推定エネルギー必要量(EER)はどのように算出していますか。	「日本人の食事摂取基準」に示されている、身体活動レベルⅡの推定エネルギー必要量と、その対象者の性別・年齢に基づいて算出しています。ただし、年齢階級の境界上で大きな不連続が生じないように、数値をならした(smoothingを行った)値が記載されています。詳しい計算方法は5-5を参照ください。
160210	5-5	BDHQのnutrシートに記載されている推定エネルギー必要量(EER)が食事摂取基準の値とは異なるのはなぜですか。	「日本人の食事摂取基準の値をもとに、一部加工して数値をならした(smoothingを行った)値にしてあるためです。例えば食事摂取基準では、男性(身体活動レベルⅡ)の場合 10～11歳 2250 kcal/日 12～14歳 2500 kcal/日 15～17歳 2750 kcal/日 となっており、この値をそのまま使うと、11歳と12歳の間で250 kcal/日、14歳と15歳の間でも250 kcal/日と、年齢が1歳違うだけで数値が大きく変わってしまいます。そのため、BDHQではこのことを考慮し、全年齢で段階的に数値が変わるように加工して、算出してあります。具体的な計算方法ですが、例えば12～14歳は2500 kcal/日なので、その代表となる年齢を横軸に、EERの2500 kcal/日を縦軸にプロットします。次の年齢区分の15～17歳は2750 kcal/日なので、その代表となる年齢と2750 kcal/日をプロットします。この2点を直線で結んだ式を作り($y=ax+b$)、対象者の年齢をxに入れて算出したyの値をEERとしています。 この方法は一般的に使われている方法ではなく、あくまでBDHQの結果票を出すために限って使われている方法であることもご理解ください。
151128	5-6	DHQ/BDHQデータに示されている「エネルギー」は、質問票の回答結果から算出した、推定1日摂取エネルギー量でよいでしょうか。	質問票の回答から算出された、1日あたりのエネルギー摂取量推定値です。ただし、誤差があることをご理解ください。

公開日	No.	質問内容	回答
170201	5-7	身体をよく動かすグループと動かさないグループでBDHQの栄養価計算の結果に違いはありますか。違いがあるのであれば身体活動レベルを変更して摂取量を計算し直していただくことはできるでしょうか。	BDHQでは身体活動レベルは考慮されず、全員が身体活動レベルⅡであるとみなして計算されるため、計算結果に違いは生じません。 残念ながら、現時点ではBDHQには身体活動レベルを算出するための質問がありません。そのため、身体活動レベルは考慮できません。そのため、しかたなく、すべての人に身体活動レベルⅡを使っています。 個別または集団ごとに別の情報源から身体活動レベルの数値が得られる場合には、この数値を考慮した計算も、BDHQの計算プログラムを改変すれば、可能です。しかし、これには計算プログラムを改変するという作業が発生します。現段階では、共同研究としてこのようなことができれば、BDHQの進歩と更なる利用範囲の拡大につながると期待しています。
151128	5-8	BDHQ15yは、運動クラブ活動とそれに近い運動の習慣を尋ねています。この回答は計算には反映されないのでしょうか。	この回答は栄養価計算には使われていません。詳細に関して5-7も参考にしてください。
170303	5-9	結果データファイルにない栄養素や食事変数の計算をしてもらうことは可能ですか。	「共同研究」の場合は相談の上、可能な場合は計算をしています。例えば、トランス脂肪酸、カフェイン、GI、GL、アミノ酸、食事由来全抗酸化能(TAC)などは、結果データファイルにはありませんが、算出法に関する研究が実施され、算出可能な変数です。さらに、計算方法が未開発の食事変数はその開発から共同研究を実施することも可能です。詳細はお尋ねください。
151128	5-10	結果データファイルのファイル構造は変えてもよいですか。	ファイル構造は変えないようにしてください。結果データファイルから必要な変数を取り出して、新しいファイルを作り、解析などに用いるのは自由です。
151128	5-11	BDHQ4ページ目の「肉を使った料理」「魚を使った料理」の回答はどのように結果に反映されるのでしょうか。	BDHQのfoodシート71～73行目(BDHQ3y、15yのfood2シート126～128行目)の「調理食塩」～「調理砂糖」を計算するために使用されています。
160802	5-12	BDHQで、果物のみ「季節によって食べ方が大きくちがう食べ物」のところであらためて質問するのはなぜでしょうか。また、どのように結果に反映されるのでしょうか。 この項目では、みかん、柿、いちごが挙げられています。しかし私たちの地域はりんごの産地であり、これらの果物よりもりんごが最も季節差の大きな果物になります。一方で柿はめったに食べません。そのため柿をりんごに置き換えて回答してもよいでしょうか。	みかん、柿、いちごのみ、もっともよく食べた季節の食べ方を尋ねている理由は、これらがビタミンCを多く含んでおり、その食べ方が季節によって異なる場合、ビタミンCの習慣的な摂取量を1回の調査で算出するのが難しいためです。一方で、りんごを含むその他の果物のビタミンC含有量はこれらの果物に比べると少なく、果物摂取量に季節差があったとしても、ビタミンC摂取量の推定に大きな影響はないものと考えられます。そのため、もっともよく食べた季節の食べ方はあえて尋ねていません。 このようなことを考慮して食品を選んでありますので、質問票に掲載されている項目を自分たちの解釈で変えることは好ましくありません。 季節によるりんご摂取量の違いを詳しく調べたい場合には、BDHQの質問項目を変えるのではなく、別の質問票で尋ねるとよいでしょう。 ただし、現在のところ、この「季節によって食べ方が違う果物」の回答は、通常 の栄養価計算には反映されていません。

公開日	No.	質問内容	回答
151128	5-13	飲酒の頻度で回数に回答があるのに、量の方が全て「飲まなかった」場合は、どのように数値化されますか。	飲んでいないことになります。
151128	5-14	妊婦や授乳中とそうでない場合で、栄養価計算の結果が異なりますか。	食品や栄養素の摂取量推定値は変わりません。ただし、食事摂取基準では妊婦や授乳婦へ付加量が示されている栄養素がありますので、妊婦や授乳婦とそうでない方では、食事摂取基準を満たしているか否かの判定結果(例えば個人結果票の青・黄・赤の信号の結果)などが異なります。
160425	5-15	nf_nutr1、nf_nutr2、nf_nutr3 シートの結果は何を示していますか。	f_nutr1、f_nutr2、f_nutr3 に対応する(同じ変数構造で位置も同じ)変数で、結果票の「平均的な日本人」の値を算出するためのデータが示されています。国民健康・栄養調査の結果から推定した、同じ性・年齢階級における、計算プログラム改定時の直近4年間における平均摂取量を、年齢に従って数値をならした(smoothingを行った)値です。BDHQの個人ごとの回答の結果は反映されず、同じ性別、年齢であれば同じ値となります。この値をさらに、その年齢の推定エネルギー必要量のエネルギーを摂取したと仮定して補正した値(推定申告誤差調整値)が結果票の「平均的な日本人の摂取量」となります。参照する国民健康栄養調査の値は、食事摂取基準の改定により計算プログラムを更新する場合に変更することとしています。
151128	5-16	BDHQ3y、4ページ目の「野菜は」と「『お腹がすいた・早くごはんにして』と言えますか」の質問は栄養価計算に影響しますか。	これらの質問は習慣を尋ねるために設けているものです。計算結果には反映されません。
151128	5-17	BDHQデータのbdhq1_1.datシートでANSWERの列に2桁以上の値が入っています。これはどのようなことを意味していますか。	ANSWERの項目は、1.本人、2.妻、3.娘、4.その他、5.母親、6.父親、7.祖母 が入ります。複数回答の場合には、56(母親、父親)のようにデータが入ります。
151128	5-18	signalシートの「9」の判定はどのような意味でしょうか。	「信号なし」です。「9」は、データがないか、または、判定基準がないことを示します。例えば18歳未満の場合、食物繊維、脂質、飽和脂肪酸などは判定基準がなく、すべての対象者で9と入力されます。
151128	5-19	BDHQ3y、15yの肥満の判定に用いている標準体重の算出方法を教えてください。	肥満度判定曲線には、「伊藤善也:肥満度判定曲線、成長曲線は語る 藤枝憲二編、p39-43、診断と治療社、東京、2005」を使っています。関数の詳細はHP上の以下の場所に掲載されています。 http://www.ebnjapan.org/developer/pdf/1005095.pdf
151128	5-20	DHQの「20歳ごろの体重」は計算結果に影響しますか。	栄養価計算には現在の体重を用いているので、この値は使用していません。
151128	5-21	DHQの栄養補助食品の回答は計算に影響しますか。	栄養価計算には反映されません。
151206	5-22	DHQのからだの動かし方の回答は計算に影響しますか。	栄養価計算には反映されません。結果票も、この回答によらず、全員が身体活動レベルⅡであるとして示されます。

公開日	No.	質問内容	回答
160210	5-23	BDHQの質問票が異なると、算出される栄養素の種類も異なるのでしょうか。	BDHQの種類はいくつかありますが(BDHQ、BDHQ15y、BDHQ3y)、算出される栄養素はすべて同じです。ただし、異なる計算プログラムを用いて計算しているため、異なる質問票から得られたデータを統合して集計することは避けた方がよいかもしれません。
160210	5-24	肥満者で全体的にエネルギー摂取量が低めに算出されています。肥満者では摂取量を低めに自己認識して記入することがあるのでしょうか。	食事調査では一般的には大きめ(過大評価)よりも小さめ(過小評価)に申告(評価)する方が起こりやすく、問題になりやすいことが知られています。過小評価の問題は、特に肥満者で著しいことが知られています。「日本人の食事摂取基準2015」Ⅱ各論1-1エネルギーの図10が参考になります。
160210	5-25	申告誤差(%)の値は、個人結果票からしかわからないのでしょうか。	データにはありませんので、nutrシートの エネルギー摂取量/推定エネルギー必要量 から算出してください。なお、この値がデータにも掲載されるよう、現在準備中です。
160210	5-26	nutrシートの脂肪酸のC16:0(S)、C16:1(M)、C18:0(S)、C18:1(M)などの英語名と日本語名をご教示いただけませんか。また、C16:1やC18:1には細かい種類があるはずですが、すべてを併せてカウントしたものなのか、それともどれか1種類のみなののでしょうか。(S)と(M)の違いもご教示いただけますと幸いです。	BDHQデータおよび個人結果票(詳細編)では、脂肪酸の表記は「C炭素数:二重結合数(飽和(S)/一価不飽和(M)/多価不飽和(P))」で示しています。また、イソ酸とアイテイソ酸が認められている場合それぞれIとAで区別しています。「日本食品標準成分表2015年版(七訂)脂肪酸成分表編」P.5~6に正式名称、英語名、日本語名等記載がありますので参考にしてください。 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/12/24/1365337_3-0101.pdf なお、BDHQデータ中の表記に一部誤りのあることが確認されており、現在修正を行っております。
160210	5-27	nutrのシートの各栄養素の並んでる順に意味はありますか。	BDHQ開発の順に従っており、栄養学的な意味はありません。
160210	5-28	DHQの「DBase2」シートでED~EF列「普通乳、低脂肪乳、スキムミルク」の項目はDHQLでは欠損」と記載があります。なぜこれらの摂取量は算出されていないのでしょうか。	DHQで推定した乳製品の摂取量はDBase2シートのEW~EX列「低脂肪乳、普通乳」に算出されます。一方、版の古いDHQを使用した場合は、乳製品の摂取量はED~EF列に算出されます。使用されたDHQの版によって使用する列が異なります。欠損になっていない、値が入力されている列をご使用ください。
160210	5-29	「質問におもに答えた人」の回答は計算に影響しますか。	影響はありません。
160328	5-30	BDHQ15yのポーションサイズはどのように決められているのでしょうか。	BDHQ15yのポーションサイズは一定ではなく、年齢によって変えています。いくつかの代表となる年齢のポーションサイズを性別ごとに決め、その間の年齢で徐々に増加させるような計算式に当てはめています。この計算方法によって算出された各栄養素および食品群摂取量の妥当性の検討は現在準備中です。

公開日	No.	質問内容	回答
160425	5-31	個人結果票詳細編に記載されている、「密度法による摂取量」「推定エネルギー必要量を摂取していた場合の摂取量」はデータには記載されていないのでしょうか。	<p>データにはありませんので、nutrとfoodシートの値を使用して以下のように算出してください。 密度法の場合は、①エネルギー産生栄養素と②非産生栄養素・食品で算出方法が異なります。</p> <p>【密度法(1000kcalあたり)による摂取量】 ①エネルギー産生栄養素(たんぱく質、脂質、炭水化物、アルコール): エネルギー摂取割合(%E) =各栄養素からのエネルギー摂取量(※)／エネルギー摂取量(EN) × 100 ※たんぱく質:たんぱく質粗摂取量 × 4 脂質:脂質粗摂取量 × 9 炭水化物:炭水化物粗摂取量 × 4 アルコール:アルコール粗摂取量 × 7.1</p> <p>②エネルギー非産生栄養素・食品: 調整済み摂取量 =各種栄養素・食品粗摂取量／エネルギー摂取量(EN) × 1000</p> <p>【推定エネルギー必要量を摂取していたと仮定した場合の摂取量】 調整済み摂取量 =各種栄養素・食品の粗摂取量／エネルギー摂取量(EN) × 推定エネルギー必要量(EER)</p> <p>なお、この値をデータに含めるよう、現在準備中です。</p>
160531	5-32	BDHQ15yで動物性脂質(g/日)と植物性脂質(g/日)との合計が脂質(g/日)の値にならないのはなぜでしょうか。	ご指摘ありがとうございます。計算プログラムを確認したところ、15yと3yの「低脂肪乳」「ふつうの牛乳」「乳酸菌飲料」の動物性脂質の値が動物性脂質の合計値に含まれていないことが分かりました。一方、総脂質の合計値に間違いはありません。大変申し訳ありませんでした。間もなくリリースする新しいプログラムでは修正されるように現在作業中です。
160531	5-33	BDHQ15yでExcelシートのnutrに記載されていますエネルギー(kcal/日)と、Excelシート(f_nutr1)のエネルギーにあります「穀類」～「調味料・香辛料類」の15項目の合計と異なる場合がありますがどのようなことが考えられますでしょうか。	nutrシートのエネルギーの値は、尋ねている全食品の摂取量から算出しています。一方で、f_nutr1のエネルギーは、food2シートの6行目に記載されている食品群の分類に従って「穀類」～「調味料・香辛料類」由来のエネルギー量を算出しています。食品のうち「水(BZ列)」と「滋養強壮剤(CF列)」の2項目のみ、どの食品群にも属さないの(分類上は除外)、f_nutr1のエネルギーに含まれておりません。エネルギー以外のすべての栄養素に関してもこの2項目を含めずにf_nutr1～3シートを作成しています。それぞれの合計がnutrシートの値と異なるのはそのためです。

公開日	No.	質問内容	回答
160802	5-34	<p>栄養価計算のなされる各栄養素の定義はどこに示されているでしょうか。例えば炭水化物摂取量には食物繊維(総、水溶性、不溶性)、アルコールは含まれるでしょうか。食物繊維はどのように計算が行われていますでしょうか。</p>	<p>栄養素摂取量の計算は主に「日本食品標準成分表2010」(成分表)に掲載されている各食品の栄養素含有量の値が使われています。そのため、各栄養素の定義はこの食品成分表で定められた栄養素の定義によります。成分表をご参照ください。例えば炭水化物にはアルコールは含まれず、食物繊維は含まれるとあります。また、食物繊維は炭水化物とは別に量が記載されており、その値が計算に使われています。</p> <p>なお、現在、食品成分表の値を2015年版に更新するため、作業を進めているところです。</p>
161205	5-35	<p>ショ糖に関して、例えばアイスクリームや清涼飲料水を摂取している人でもショ糖の値が0となるのですが、なぜでしょうか。</p>	<p>5-24に示したように栄養素摂取量の計算は主に「日本食品標準成分表2010」(成分表)に掲載されている各食品の栄養素含有量の値が使われています。ショ糖は成分表の備考欄に掲載している値および一部未公開資料(詳細は不明)を用いています。成分表にショ糖の値が掲載されている食品はごくわずかしかなかったため、大部分の食品はショ糖に関して欠損値として処理されています。そのため、ショ糖が含まれると考えられる食品を摂取していたとしても、摂取量が0となることがあります。このような状況のため、BDHQデータ上のショ糖の値を研究および調査報告に用いるのは好ましくないと考えられます。</p> <p>なお、最新の「日本食品標準成分表2015(七訂)」では糖の成分値が以前より充実していますが、その値は現在のところ使用していません。その理由は5-36をご参照ください。</p>
161205	5-36	<p>食品成分表が改定されるたびに、計算結果も変わるのでしょうか。</p>	<p>基本的にはそのとおりです。現在の栄養価計算は、具体的には「日本食品標準成分表2010」(成分表)に掲載されている各食品の栄養素含有量の値が使われています。BDHQの妥当性の研究も、この成分値を用いて計算したデータで行われています。成分表の値が変わるごとに計算結果を変えた場合、BDHQの妥当性が担保されるのかに関しては、別途研究を実施して、慎重に進めなければならないと考えています。そのため、今のところは最新の「日本食品標準成分表2015(七訂)」での計算は実施していません。今後、研究を進め、最新の成分値を用いた場合の妥当性が担保できることを確認したところで、計算プログラムを更新することを考えています。</p>

公開日	No.	質問内容	回答
171106	5-37	例えば、アルコールの摂取量はどのように計算されているのでしょうか。どの食品項目を使っているのか教えてください。	<p>アルコール(エタノール)は、事実上、酒類由来がほぼ100%ですが、アルコールに限らず、BDHQで算出されるすべての栄養素は、質問票に掲載されている特定の食品項目ではなく、すべての食品の回答から算出されます。各食品を1回食べたときの標準的な摂取量(ポーションサイズ)と、その食品と対応する成分表(文部科学省が作成している「日本食品標準成分表2010」)番号を定めています。各食品の摂取重量と、その番号の食品の栄養素含量を使って計算されます。</p> <p>各食品で使われているポーションサイズと、食品成分表番号は、今後以下のサイトで公開する準備を進めています。 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/dhq/manual/manual.html</p> <p>また、詳細は共同研究の範囲内で、各研究者にお伝えしています。</p>
170303	5-38	ある食品の摂取頻度の回答が同じでも、摂取量が異なる場合があるのはなぜでしょうか。	<p>食品の摂取量は1回あたりの摂取量(ポーションサイズ)と摂取頻度を掛け合わせて算出していますが、ポーションサイズの値が性別によって異なるためです。</p> <p>また、成人の場合(BDHQ)は、P.4の「外食の定食1人前と自分が普段食べている量を比べた場合」の回答によっても異なります。</p> <p>一方、BDHQ3yと15yは、さらに、年齢によっても異なります。</p>
170303	5-39	DHQデータにはアミノ酸やイソフラボンの値が記載されていますが、これらの値も研究に使用することはできますか。	<p>DHQデータに記載されている一部の変数は開発中の値も含まれています。妥当性の検討も行われていません。使い方が難しいので、アミノ酸とイソフラボンの値を研究として使う場合は、本研究室との共同として進めて頂くことをお願いしております。</p>
170821	5-40	食事摂取基準が改訂されるときに、個人結果票はそれに対応して更新されていると伺いました。その場合、栄養価計算プログラムも修正されているのでしょうか。研究でデータを使いたいのですが、計算をやり直したほうがよいのでしょうか。	<p>食事摂取基準が改定されたときに変更している栄養価計算プログラムは、成人用BDHQでは、個人結果票の作成に必要な部分のプログラムのみをそのつど修正しています。具体的には「信号の色」の結果だけです。データExcelファイルでは、[signal]に格納されています。粗摂取量の計算に関わる部分に変更はありません。そのため、食事摂取基準の改定により結果票が更新されたとしても、粗摂取量のデータには変更はありません。食事摂取基準の改定のたびに栄養価計算をやり直す必要はありません。</p> <p>一方、現在開発中のBDHQ15yとBDHQ3yでは、粗摂取量の栄養価計算プログラムに最新の食事摂取基準で設定されている推定エネルギー必要量(EER)を用いる可能性があります。その点は、食事摂取基準の改定のたびに計算結果に大きな変更が生じないように、注意を払いながら開発を進めているところです。</p> <p>いずれにしても、計算を実施した時期や場所が粗摂取量の計算結果や研究には影響がでないように配慮しております。</p>

公開日	No.	質問内容	回答
170821	5-41	BDHQ成人版、15y、3yを使用した調査をしたところ、3yのみそ汁(MISO2)の摂取量が成人版や15yに比べてとても大きくなっていました。なぜでしょうか。	ご指摘ありがとうございました。計算プログラムを確認したところ、3yの「みそ汁」の値を算出するプログラムを見直す必要があることが分かりました。大変申し訳ありませんでした。今後妥当性を検証した後にリリースする新しいプログラムでは修正されるように現在作業中です。
171106	5-42	栄養価計算はどのように行われているのでしょうか。計算の詳細を教えてください。	栄養価計算プログラムの内容は、今後以下のサイトで公開する準備を進めています。 http://www.nutrepi.m.u-tokyo.ac.jp/dhq/manual/manual.html 今しばらくお待ちください。また、共同研究の範囲内で、必要な情報は各研究者にお伝えしています。
180209	5-43	食品群別の摂取重量(データf_nutr1の摂取重量の値)は、どの食品をどの食品群に分類して算出しているのでしょうか。	BDHQの栄養価計算でどの食品をどの食品群に分類しているかは、マニュアルの以下の場所のp.5～6に掲載されています。 http://www.nutrepi.m.u-tokyo.ac.jp/dhq/manual/cal02.pdf 個人結果票では、詳細編の「食品群分類」の列に各食品をどの食品群に分類したか記載されています。 http://www.nutrepi.m.u-tokyo.ac.jp/dhq/bdhq05.pdf 3yおよび15yの場合はデータ上のfood2シート6行目の「食品群」の行にも記載されています。
180309	5-44	国民健康栄養調査の値は栄養価計算に使われているのでしょうか。	国民健康栄養調査の値は個人結果票の「平均的な日本人の摂取量」を算出するためのみに用いています。対象者の方の食事摂取量を算出するためには用いていません。そのため、国民健康栄養調査の参照データが更新されたとしても、粗摂取量のデータには変更はありません。
		6. 集計解析の方法	

公開日	No.	質問内容	回答
151128	6-1	DHQ/BDHQの値を使用して、食事摂取基準の推定平均必要量や目安量を用いて栄養摂取状況をアセスメントする場合、申告誤差があることを考えると、どのように比較すればよいでしょうか。	<p>食事摂取基準の各栄養素の指標は、推定エネルギー必要量を摂取していることを前提として定められています。そのため、食事摂取基準の指標とDHQ/BDHQの回答結果を比較する場合には、推定エネルギー必要量を摂取したと仮定したエネルギー調整済摂取量を用いるのが適切と考えられます。過去にいくつかの研究でその手法がとられています。 http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/20854720 http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/21147718</p> <p>ただしこの場合、「対象者の摂取エネルギーがエネルギー必要量と等しい」および「その対象者のエネルギー必要量が推定エネルギー必要量と等しい」という2つの仮定を設けていることになり、通常エネルギー調整とは異なる手法です。このことが、研究を実施するうえでの限界となります。</p>
151128	6-2	食品も栄養素と同様に、摂取量の平均値を算出したり、群ごとの比較をして統計学的な有意差があるかを検討したりするなどの処理をしてよいのでしょうか。	<p>食品摂取量も栄養素摂取量と同じように扱うことができます。ただし食品の場合は、全く食べていない人で摂取量が0になるなど、個人による偏りが栄養素よりも大きくなりますので、それぞれの変数の分布などの特徴をよく確認した上で集計する必要があります。</p>
160210	6-3	BDHQにはいくつか種類がありますが、これらのデータは連結して統計処理することが可能でしょうか。	<p>異なるBDHQは異なる計算プログラムを用いて食品と栄養素摂取量の推定値を算出しています。そのため、食品・栄養素摂取量等を用いた集計を行いたい場合に、これら2種類の質問票から得られた値をプールして行うことは避けた方がよいかもしれません。</p>
161205	6-4	エネルギー摂取量が低い対象者を除外するときの考え方を教えてください。	<p>まずは質問票に欠損がないこと、回答に明らかな考えちがいがいないことを確認して下さい。 そのうえで、どの対象者を申告誤差が大きすぎるという理由で除外するか、詳細はHPの以下の場所で説明しています。 http://www.ebnjapan.org/developer/pdf/1005097.pdf</p> <p>一方で調査報告書では、加工を施さない実測値をそのまま報告するのが望ましいとする考え方があります。その場合は、除外は極力行わず、過小・過大申告者がいることやその人数を記述し、集計には全員を含めることとなります。</p>
160210	6-5	野菜摂取量(g/日)を知りたいのですが、どのような計算をすればよいでしょうか。	<p>もし、緑黄色野菜、それ以外の野菜のすべてを含めて野菜摂取量とする場合は、foodシートの列T(緑黄色野菜の漬物)～列AB(トマト)の9項目を合計した値となります。きのこや海草などを野菜類とする場合には、さらにこれらを追加して合計します。このように、食品群の分類は研究の目的によってその都度変える必要があります。各食品の分類方法は、以下のファイルのp.4を参照してください。 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/dhq/manual/cal02.pdf</p>

公開日	No.	質問内容	回答
160210	6-6	BDHQで算出された栄養素摂取量が食事摂取基準を満たしているか調べ、その結果を国民健康栄養調査の結果と比較したいと考えています。どうすればよいでしょうか。	BDHQで算出された摂取量を食事摂取基準と比較する場合には、推定エネルギー必要量を摂取したと仮定したエネルギー調整済摂取量を用いるのが適切と考えられます(No.6-1を参照)。 一方、国民健康栄養調査とBDHQの結果を比較する場合、これらは異なる調査法を用いているので、単純に比較することはできません。それぞれエネルギー調整済値が分かれば、それを参考値として比較することも可能ですが、国民健康栄養調査の結果は個人の値が公表されていないので、エネルギー調整を行うことができません。そのため、これらの比較はできないと考えた方がよいでしょう。あえて比較はせずに、それぞれの値を並列して示す程度に留めるのがよいだろうと考えられます。
160210	6-7	食品群別栄養素摂取量の値を算出するにはどのようにすればよいでしょうか。	計算結果はf_nutr1、f_nutr2、f_nutr3シートにそれぞれ記載されています。このシートに示されている値は粗値(エネルギー調整していない値)です。
160210	6-8	食品群摂取量を算出するにはどの食品をどの食品群に分類すればよいでしょうか。	どの食品をどの食品群に分類するかは、目的によってその都度変更する必要があります。1つの例として、BDHQの栄養価計算でどの食品をどの食品群に分類しているかは、マニュアルの以下の場所のp.5~6に掲載されています。 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/dhq/manual/cal02.pdf 個人結果票では、詳細編の「食品群分類」の列に各食品をどの食品群に分類したか記載されています。 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/dhq/bdhq05.pdf 3yおよび15yの場合はデータ上のfood2シート6行目の「食品群」の行にも記載されています。
160210	6-9	食品群摂取量を算出する場合、例えば魚介類の変数FISH1、2、3…とFISHD1、2、3…は重複するならどちらかのみを用いた方がよいでしょうか。また、砂糖・甘味料類はSGRとCOOK3もどちらかのみを用いた方がよいでしょうか。	魚介類のFISHD1、2、3…と肉類のMEATD1、2、3…は使用されている調味料を算出するために用いられる変数で、摂取量を示しているものではありません。そのため、これらは摂取量に含めないでください。一方、砂糖・甘味料類のSGRは「コーヒー・紅茶に入れる砂糖」、COOK3は「調理砂糖」で、それぞれ別の食品ですので、両方を合計してください。食品摂取量として扱うことのできる変数は、foodシートのBE列～BM列(魚料理と肉料理)とBP列～BR列(もつともよく食べた季節の果物)を除いた58食品です。
160210	6-10	エネルギー過小・過大申告者を除外しても、申告誤差の割合が高い人が含まれています。データをどのように取り扱えばよいでしょうか。	申告誤差は必ず生じるものです。研究でデータを使用する場合には、通常エネルギー調整済値を使用します。エネルギー調整の方法はいくつかあり、詳細は以下を参照してください。 「わかりやすいEBNと栄養疫学 佐々木敏著 同文書院」P.132

公開日	No.	質問内容	回答
161006	6-11	<p>自治体でBDHQを用いた調査を行いました。BMIにより対象者を群分けして各種栄養素摂取量を比較した結果を、調査報告書に記載したいと考えています。エネルギー調整の方法として、推定エネルギー必要量あたりの摂取量を使用したいと考えます。しかし、肥満者のエネルギー摂取量はふつう体重の人の摂取量よりも多いと思われるのに、推定エネルギー必要量を用いて調整した場合、肥満者でもふつう体重の人でも年齢と性別が同じであれば推定エネルギー必要量が同じとなるため、摂取量の実態をうまく示すことができていないように感じます。それでもエネルギー調整するべきでしょうか。</p>	<p>エネルギー調整には、通常はBDHQで申告されたエネルギー摂取量を使います。ただし、申告エネルギー1000kcalあたりで示した値の場合、1日分の摂取量としてはどの程度なのか想像しにくいので、報告書等に示す値としては、推定エネルギー必要量(EER)あたりで示した値のほうが使い勝手が良いと考え、お勧めしています。EERあたりの値は報告書レベルに留めた方がよいと思われます。</p> <p>申告誤差とBMIの間には関連があることが知られています(「日本人の食事摂取基準」II各論、1-1エネルギー、図10参照)。エネルギー調整を行うことで初めて、BMI別の食事摂取状況を比較することが可能になります。言い換えれば、エネルギー調整済値を使用しなければ群間比較はできないため、調整はすべきです。</p> <p>エネルギー調整を行うことによってその影響を取り除いて摂取量を扱えることが、研究で示されています。 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/publication/japanese/10266.pdf</p> <p>しかしながら、エネルギー調整済摂取量は本来の摂取量を表しているわけではありません。推定エネルギー必要量(EER)あたりで調整しても、申告エネルギー1000kcalあたりで調整しても同様です。調整済値が摂取量そのものを表しているわけではなく、あくまで食事の傾向を比較するための値だと頭に留めて頂ければと思います。</p> <p>(EERあたりで調整した場合の単位は正確にはg/EER kcalであり、g/1000kcalと同じ意味ですし、正確なg/日ではないということです。)</p> <p>一方で、研究レベルでは申告エネルギー摂取量を使った調整を行います。EERで調整する場合は特殊な目的の場合に限られます。特殊な場合というのは以下のような研究の場合です。 https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/21147718 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/publication/japanese/18999_J3866.pdf</p>
161101	6-12	<p>食事摂取量を記述する際に、特に自治体の報告書では調整しない値を結果として示している場合があります。それをどう捉えたらよいでしょうか。</p>	<p>調査報告書では、加工を施さない実測値をそのまま報告するのが望ましいとする考え方があります。これは、実測値を元に加工をして調整値などを得るのであり、得られた値はあくまでも実測値だからです。逆に調整値だけが報告されても、そこから実測値を推定(算出)するのは理論上困難です。しかし、実測値には必ず測定誤差が含まれていますし、データの利用目的に必ずしも一致しない場合もあります。たとえば、未調整の値は申告誤差の影響を受けた値として捉える必要があるでしょう。申告誤差の影響を考慮して報告するには、エネルギー調整が必要となります。それには、申告エネルギー1000kcalあたりの量を用いる方法や、推定エネルギー必要量を用いる方法があります。回答6-11もあわせて参照してください。</p>

公開日	No.	質問内容	回答
170201	6-13	過小過大申告と判断したデータを除外する場合、エネルギー摂取量のみで判断してよいのでしょうか。他の栄養素等で判断しなくてもよいのでしょうか。	現時点では、摂取量の過小過大申告の詳細な検討や考察、そして、この問題に対処する技術の開発が試みられているのはエネルギーのみであり、通常エネルギーで判断されます。他の質問票では、回答項目の欠損(答えなかった)数で判断しているものもあるようです。その他の栄養素での対処法の実現には今後の研究が必要となります。
7. 論文の読み方と作成			
160328	7-1	DHQ/BDHQで論文作成した際、方法の項でどのように詳細を記載するのがよいのでしょうか。	研究室HPに過去に書かれた論文の情報がありますので、これらの論文でどのように記載されているかご確認ください。 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/res_intro/res_intro.html DHQ/BDHQの概要のページに質問票の詳細が掲載されています。合わせてご確認ください。 http://www.nutrep.m.u-tokyo.ac.jp/dhq/dhq.html また、質問票の妥当性に関しては質問No.7-2の回答を参考にしてください。
160531	7-2	DHQ/BDHQを使った研究論文を作成するときの注意点はありますか。	過去に行われた妥当性の研究を根拠に使用するのがよいと考えられます。例えば以下のような妥当性研究があります。 成人用BDHQ http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/21477414 http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/22343326 BDHQ15y http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/19602831 BDHQ3y http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/25843433
161101	7-3	BDHQ妥当性研究の中に出てくるDe-attenuationについて教えてください。	De-attenuationとは、実際は数回しか実施できなかった事象を無限に繰り返したと仮定し、その仮の値を用いて相関を算出する方法です。 計算式は、Willett 著「Nutritional Epidemiology 3rd.ed」12章のCorrection for the Effect of Measurement Error のp.291に掲載されています。 BDHQ妥当性研究ではこの書籍の中の式12-4を使っています。